
真・恋姫無双 ～暗闇からの希望～

ふもっふ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・恋姫無双 ～暗闇からの希望～

【Nコード】

N9841Z

【作者名】

ふもつふ

【あらすじ】

闇からの守護者として生きた彼女の、転生ネタです。

不定期更新＆独断と偏見が多いですが、多目に見てくださいm(´

ー)m

第巻話 「序章」(前書き)

改めて、よろしくデス
第巻話です。

第巻話 「序章」

一人の人間が、闇夜を歩いている。

外装を羽織っているの、顔は分からないが・・・

あえて、違う所を挙げるなら・・・

背中に、【大剣】を背負っているのだ。

『・・・主！来たようだぞ。』

不意に、背中の【大剣】から《声》が発せられる。

「主と呼ばれた者」は【大剣】を抜剣し、歩くのを止める。

ほぼ同じに、周囲には異形な出で立ちの【モノ】が現れる。

『今回も、気を抜くなよ？』

【大剣】から念を押され、「その者」は無言で頷くと【異形のモノ達】に立ち向かい、殲滅して行く。

どれだけ、時間が過ぎただろうか・・・

【大剣】を振り抜くと【異形のモノ達】は、全て無に帰って行く・
『……今回も、無事に終わったな。主よ。』

【大剣】は、ねぎらいの言葉をかけた。

「……ん。」

「その主」は、一言だけ答えると歩き始めた。

『しかし、主……。あの様な【物】を守るのも、難儀だな。』

「……仕方ない。仕事だ。」

【大剣】が困ったような感じで話すが、「その者」は割り切った口調で答えるだけである。

【ある鏡を、守る】……

「その者」は懐にある、古ぼけた鏡のような物を取り出す。

『仕事を請け負ってから、【奴ら】の遭遇率が高い……。沈静化してきているがな。気を付けよ、主。』

「分かってる……。分かっているさ、紅^{くれない}。」

懐に鏡を戻すと【大剣】……。紅^{くれない}に、主は告げた。

後に・・・

・【この鏡】による波乱に巻き込まれることを彼女は、まだ知らない・

第巻話 「序章」(後書き)

いかがでしょうか？

次回、転生するカンジです。

それでは次回も、よろしくお願ひします m ((m

第弐話「転生」(前書き)

遂に、転生します。

第弐話「転生」

日本、某所……

駅近くにある居酒屋、【つかさ】……

獅子神麗奈は、そこで働いている。

「……また、来い。」

無愛想丸出しで彼女は最後の【お客】に告げ、のれんを下げる。

この口調と美貌のギャップで、今では常連の客が多く来店する。

「……麗々奈。」

困り顔で、彼女に話しかけたのは他でもない……

母であり女将の、【獅子神つかさ】である。

「……これ、仕方ない。」

「まあ、そうなんだけど……。」

麗奈は普段から、この様な口調で話す事が多いからか、つかさは気にしている素振りはない。

そう、彼女と麗奈は、実の親子ではないからだ。

「……じゃあ、帰るから。」

麗奈は、そう告げると【紅】と「鏡」の入ったバッグを手に取ると店を出た。

『……主よ。』

帰宅途中、【紅】が彼女に話しかけた。

『……妙に、静かだ。「奴ら」とも違う故、「アレ」にも気を付けよ。』

「……ん。了解。」

頷き、周囲を気にしながらバッグを確認する。

しかし次の瞬間、おもむろに「鏡」が光り出し吸い込まれるように彼女は消えてしまった。

第式話「転生」(後書き)

いかがでしょうか？

次回、「第参話 流浪」

よろしくデス

第参話「流浪」(前書き)

遂に、転生しました。

第参話「流浪」

く山中、山道く

『……るじ。……主!』

【紅】の呼び掛けで、彼女……麗奈は、目を覚ます。

「……くれ……ない??」

『気が付かれたか……主。』

「此処……は?」

麗奈は立ち上がり、周囲を見渡す。

『……分からん。いずれにせよ、このままはマズいな。』

【紅】に促され、麗奈は下山することにしたのだが……

『……主。あれは村のようだが、様子がおかしい。』

「……ん。ついでだし、情報……集める。」

『了解だ。主……無茶は、するなよ。』

前方に見える村には、所々で煙が上がっている様で、麗奈は頷くと【紅】を帯剣して村へ急いだ。

く村入口く

「……酷い。」

『どうやら、何かに襲われた後だったようだな。』

この村に来た時には、すでに遅く……

家々は無惨にも、ほとんど面影は無く……

生存者も、絶望的と思われたが……

「……さん。母さん。」

『……主、奥の方で人の気配だ。』

麗奈は【紅】を抜ける体勢で奥へ進んで行くと、事切れようとする女性と娘の姿を見つけた。

「……何が、あった？」

麗奈は無愛想ながらも、その母子に確認する。

娘は麗奈に驚きつつ……

「ぞ……賊です。食糧を奪い、後は……。」

「見た有り様・・・か。」

麗奈は、辺りを見渡す。

「父さん達も、やられちゃった・・・。」

娘も泣きながら、答える。

「・・・賊、そいつら何処？」

眉間にシワを寄せ、麗奈は問いたです。

「あちらの山にある、洞窟に・・・。」

「旅の人・・・お願いします。」

母子は賊の棲みかと思われる方角を示し、すがり付くように懇願した。

「・・・任された。」

頷いた麗奈は、賊の棲みかへと突き進む。

第参話「流浪」(後書き)

大晦日に、投稿完了出来た。

今回は、まだ未定です。

本年も、お疲れ様でした。

来年も、よろしく願いたしますm
——
m

第肆話「殲滅」(前書き)

2012年、始めましたね。

未熟者ですが、今年も、よろしくお願いしますm()m
とりあえず、こんな感じかな?って所ですね。

文才が、あまり無い者ですので・・・(汗

第肆話「殲滅」

（夜、洞窟前）

『彼処だな・・・主。しかも、数は200程度の様だが《アレ》を使うのか？』

麗奈は頷いて、紅を振り抜くと・・・

「・・・《劍魔鎧装》！」

そう言うと、彼女・・・麗奈は、黒い鎧を纏った姿に変わる。

『・・・愚問だったか。主、さっさと終わらせよう。』

【紅】の言葉に頷くと、走り出す。

数刻後・・・

叫び声と共に、男達が飛び出してくる。

「うわあああつ！」

「何なんだ？・・・あいつ？」

「お頭、早く！」

賊の数名と、お頭と呼ばれた男と洞窟から出てきた。

「あいつ、強すぎる……!!」

そう言うと同時に、黒い鎧を纏いし者……

麗奈が彼らの前へ、走り込み……

《……死ね。》

すれ違い様、大剣が振るわれ……

【彼女】は、そのまま村へ帰還する形を取った。

そして……

後に残ったのは、絶命した賊達の死体だけだった……

第肆話「殲滅」(後書き)

作者なりの、戦闘場面です。

ご指摘、ご指導あれば、よろしくです。

第五話「旅立」(前書き)

やっと、投稿出来ました。

まだ有名人は、出さない予定ですけど、温かい目で読んでみて下さい。

第五話「旅立」

（村入口）

太陽が沈む頃、彼女は村へ戻って来た。

《鎧装解除》

機械的な声と共に、鎧が解除される。

『主、鎧装の召喚可能が証明できたな・・・』

「紅・・・。とりあえず、あの娘この所に行く。話すと、怖がる。」

麗奈は紅の言葉を聞きつつ、生き残った娘の所に向かう。

「あ・・・。」

彼女は、麗奈が戻ったことに少し驚くも・・・

「・・・全部、終わった。もう、大丈夫。」

その言葉に、安堵の表情を見せた。

「・・・そういえば、まだ名乗ってなかったですね。姓は【神】、名は【羽】、字は【月花】と申します。貴女の名と、此方への理由は？」

彼女・・・神月花は、麗奈に尋ねた。

「私は、【獅子神 麗奈】。獅子神が性、麗奈が名。旅・・・して
る。さっきの賊は？」

麗奈は来た理由を、とつさに誤魔化し・・・賊の事を聞く。

「獅子・・・神さん。珍しい名前ですね。えっと、賊についてです
けど・・・」

そして、神月花は話し始めた・・・

この地では、姓・名・字・真名があること・・・

朝廷の弱体化による、賊の出現が多いこと・・・

特に多いのが「黄巾党」と言う賊であり、今回も末端に襲われたら
しいこと・・・

後々、大きな乱世が起こること・・・

「・・・神羽。」

「はい。」

「黄巾党ってヤツ・・・ツブす旅、私・・・する。神羽、どうする
？」

麗奈の急な申し出に、神羽は・・・

「御一緒にします。お一人だと、大変でしょうし……」

「たくさん、人が死ぬ所……見る。無理……しない。」
麗奈の、忠告に彼女は……

「大丈夫ですよ。これからは、手の届く人を助けたいですからね。」

「……ん。」

決意の言葉で、麗奈は納得する。

「そつだ。これからは、私を真名の【咲】と呼んで下さい。」

「……分かった。私も、麗奈で良い。」

「はい、麗奈さん。これから、よろしくお願いします。」

そして、二人の新たななる戦いの幕があがる。

第五話「旅立」(後書き)

いかがでしょうか？

次回も、ご期待ください。

幕間「人物」（前書き）

ここまでの、人物紹介です。

幕間「人物」

【獅子神 麗奈】

《ししがみ れな》

20歳、女性で無愛想だが、優しい面を持つ。
紅と出会い、守りし者として戦う。

持っていた【鏡】の力によって、《真・恋姫無双》の世界へ降り立つ。

【紅】

《くれない》

意思を持つ大剣で、魔導機。

大剣と獣の2形態に、変形可能である。

【神 奉 月花 咲】

《じん ほう げっか さき》

麗奈が助けた村の最後の生き残りとなった、15歳の女の娘。
主人公の右腕として、同行する。

幕間「人物」(後書き)

とりあえず、こんなカンジです。

第陸話「旅路」(前書き)

作者なりに、悩みました。
とりあえず、読んでみて下さい。

第陸話「旅路」

神羽こと【咲】と旅をすることになった、獅子神麗奈と大剣【紅】
・
・

旅を続ける中、黄巾党の殲滅を行うこと数回・・・

各地にて、かのような噂が流れることとなっていた。

《黒き化神》、《黒き獣》・・・

そして現在、こちらは広州の村にある宿屋の部屋・・・

「はあ・・・」

「咲・・・どうした？」

『主・・・彼女も、大変なんだろう。』

「んも・・・。紅さんってば最初は、びっくりしましたよ。」

そう、旅を初めて間もない頃・・・

彼女、神羽も紅が会話できるとは、思わなかった「まあ、それが当然の見解」。

しかし、慣れは恐ろしいもので・・・

数ある戦いで、普通に会話してしまったらしい・・・

「それにしても、麗奈さん・・・これから、どうしましょうか？」

「????？」

「いずれは、黄巾党との大きな戦いになると噂があります。その時は、どうされます？」

そう・・・

旅をする中で噂される、黄巾党との大戦・・・

それを殲滅せんとする、勢力達・・・

曹家、孫家、袁家、劉家・・・

果たして、麗奈達の運命や如何に？

第陸話「旅路」(後書き)

いかがでしたか？

ご指摘等、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9841z/>

真・恋姫無双 ~ 暗闇からの希望 ~

2012年1月6日01時50分発行